

ハ) 號作戰ニ於ケル第三十一師團作戰經過ノ概要

自昭八九年九月下旬其主力ヲセエボク以北、インドウ湖、ミートキナ

師團ハ昭和十八年九月下旬其主力ヲセエボク以北、インドウ湖、ミートキナ

線ニ集結ヲ完了スルマ之ニ先ダチ步兵三大隊砲一大隊ヲ基幹トスル

部隊ヲシユビ山系以西ノ地区ニ挺進配置シ敵ノ反攻ヲチ河々畔ニ於テ拒

止軍減スル如ク築城並ニ防衛施設ヲ講スルト共ニ兼テウ号進攻作戰ノ

欺騙ニ努ム

當時ニ於ケル師團ノ態勢左ノ如シ

(イ) 右地区隊(クワンゴト)含メズシツク(正面)

步兵才五十八聯隊才一大隊其幹ノ部隊

主トシテシツク及ボマリ附近ニ配置シチ河々畔情報ヲ収集セ

シム

(ロ) 左地区隊(クワンゴト)含メズシツク(正面)

步兵才五十八聯隊(才一大隊及)山砲一大隊其幹ノ部隊

主カヲワシツク及ボマリ附近ニ配置シチ河々畔情報ヲ収集セ

シム

次ア十一月靴季ノ到来ト共ニ、ホマリ、バンモ、クワンゴト、インドウ湖、自動貨車ニ依ル

補給路ノ啓閉ニ伴ヒ、右ニ於ケル進攻部署ニ即應スル如ク、ホマリ、クワンゴト

右地区隊ノ増強ヲ計ル即チ步兵團司令部及步兵才五十八聯隊主力並

山砲一大隊ヲ企圖ヲ秘匿シツク、シユビ山系以西ノ地区ニ挺進スルト共ニ師團司

令部ハ十一月初旬、ヒンボン、ナカン附近ニ進出シ步兵才百二十四聯隊山砲才三十一

聯隊主力工兵才三十一聯隊等直轄部隊ヲシユビ山系東麓ニ挺進セシム

諸隊ノ右転移ハ夜間ヲ利用シツク概テ十一月末頃迄ニ完了セリ

之向師團及各隊ハ作戰準備ヲ爲所要、幹部ヲ効力ニシテ、河々畔ニ挺進シ

敵情地形、後方情報等ノ偵察ニ努ム

自昭八九年九月下旬 師團展開ノ爲、チ河々畔ニ向テ機動 (参照附圖才二)

本機動主眼ハ軌跡活潑ナル敵空軍ノ偵察ト地上謀者ニ対シ補給ヲ顧

慮スル爲メ、人馬車輜ヲ二本、シユビ山横断車道ヲ利用シ、西モ十五

師團ト重複使用シツク、企圖ヲ秘匿シ如何ニ整齊迅速ニ実施スルヤ

ニ在リ

右ニ対シ師團ノ動物部隊ハ敵空軍ノ同道ヲ利用シ、シヤンタルニ遮サレツ

畫同小部隊ノ区分前進車道ノ夜間利用及畫同遮蔽交通整理等ヲ

策スルト共ニ土民ノ交通遮断ニ依ル地上秘匿ニ徹シ宣傳欺騙工作ト相

俟ツテ極力空地ニ対スル企圖ノ秘匿ニ努ム

右ノ特ニ師団ノ大ナル部題ハヴエ河地障ヲ超テ其北岸地ニ其全カ  
ヲ投入スルト諸隊展開待機同ノ補給集積ニ件ト大ナル努力  
創意トヲ要セシ問題ナリ

2. 諸隊ハ昭和十九年ノ新春ヲ僻敵ノ地ニ迎エ聖壽ノ方ヲ奉唱シテ  
動ヲ開始シ大ナル困難トシニヒ山系ノ試練ヲ克服シツテ二月下旬概  
所命ノ展開ヲ完了セリ

之向ヲ十五師団ト協調並ニ才五工兵隊ノ協力ハ興ツテ機動實施ヲ  
円滑ナラシメタリ

3. 各部隊ノ機動要領 附圖才一ノ如シ

三、渡河ノ諸準備 並ニ印緬國境ニ向フ片候ノ派遣

の各突進隊ハ師団ノ指導ニ依リ渡河作業隊ト密ニ現地ニ於テ渡河ノ諸  
準備ヲ補綴シ確信ヲ深ムル所ナリ

の各突進隊ハ展開完了ト共ニ約十日ノ予定ヲ以テ印緬國境迄ノ地形敵  
情特ニ道路細ノ搜索ノ目的ヲ以テ將校ヲ長トシル數名ノ片候ヲ若入  
派遣ス

右片候ハ三月十日迄ニ夫々歸還シ既得情報ト大差ナラ敵ノ警戒以外ニ  
稀薄ナルヲ知リ益々無血渡河ノ確信ヲ抱クニ至レリ

#### 四、渡河作戰及國境線ニ向テ突進状況

此ヨリ先軍電報ニ依リ又日ハ三月八日ヨリハ三月十五日ナル旨ヲ知得スルト共ニ才  
三十三師団ノ八日ヲ期スル進攻ハトザン、テナム地ニ於テ敵英印才七師  
団ニ大ナル打撃ヲ加ヘ同兵團ハイバール南方國境ニ向ヒ破竹ノ進軍ヲ續ケ  
アリ尚イバール平地ノ敵才四軍団ハ動搖シアリガホウ谷地ニ新ニ才三十師  
団ノ進出ヲ見ル又才十五師団ハ十五日薄暮渡河ヲ開始スルノ間敵ニ接ス  
以上捷報ヲ靜觀シツテ我カ各突進隊ハ隱忍ノ極ノ刻ニ待テ三月十五日  
薄暮各方面一斉ニ機舟渡河ヲ開始(右突進隊ハ清波)シ右及左突進隊  
ハ一夜ニ全カ中突進隊又其前衛ニ立カ渡河ヲ完了シ茲ニ無血奇襲  
渡河ヲ完了シ印緬國境ニ向テ突進ニ取移セリ

師団司令部ノ主力又昨夜ニ渡河シ前衛ノ後方ヲ續行ス

各突進隊ハ國境ニ到ル間敵ノ要要ニ配置シアル微弱ナル部隊情報  
隊ヲ奇襲シ既シツテ前進ス

#### 右突進隊

右突進隊ハ南側地ニ於テ約三、四ノ師団ニ於テ約二百ノ英人ノ指揮スル兵  
兵ヲ奇襲シ所在ノ武器糧秣ヲ取得シツテ三月十六日國境ヲ突破ス

#### 中突進隊

中突進隊ハ前橋ハ杉本ルハハニ於テ各百内外ノ敵ヲ奇襲シ尔后大ナル抵抗ヲ受ル  
ナク三月十八日國境ヲ突破シ三月十九日司令部ヲ占領シ三月二十日此ノ附近  
ニ於テ才五師団又予定ノ如ク渡河ヲ見テセシラ知ル

3. 左突進隊

破竹突進速度ヲ以テ所在ノ敵ヲ突破シツ、十九日國境突破シテ十日  
既ニ要衝ヲウクルルヲ占領シテ後ノ作戰ニ寄与スル所大ナリ

五、各突進隊ノ國境守備隊トシテ戰鬥ノ情報

(1) セツサミ附近ニ於ケル右及中突進隊ノ戰鬥

イ、前衛及右突進隊ハゴヒマ方面ニ通スル國境道路ノ要兵、セツサミニ於  
テワッサム第一聯隊ノ守備スル掩蓋止阻保ニ遭遇シ數米ノ間ニ之ヲ包圍シ  
激戰スルコト三晝夜及ビテ數名ノ死傷ヲ出シテ一日夕ニ及ビ之ヲ潰亂ニ  
陥ラシム。追十四糧秣被服彈藥等相共、戰果ヲ琴子ノ此ノ頃敵ノ  
戰鬥編隊遂次戰鬥ニ参加スルニ至レリ

口情報

本戰鬥ノ結果、ワッサム第一聯隊約八百ニシテ、ゴヒマニ到ル間予期ニ及シ大  
敵ノ抵抗組織ナク、ゴヒマニハ若干ノ守備部隊アル外大ナル部隊ナシ又  
國境以西新設シテ道ヲ開設シテ即チセツサミニ、ゴヒマ道、セツサミトカ  
ラウホーウクルル道、カランムトト左ノ道ニニツニシテ道ニ軍用被服線構成  
セラレアリ茲ニ於テ師團長ハ右突進隊ヲシテ依然ノ所命ノ道路ヲ突進セシ  
ムルト共ニ極力突破速度ノ増大セシムルニ勉ム

(2) ヴルル西南側、ルンヤン附近ニ於ケル左突進隊ノ戰鬥

(3) ヴルルノ要衝ヲ我軍カ占領スルマ否ヤハ第十五師團ノインパール突進ニ至大ノ影響有ラ有スルノミナラス軍トシテモ、シツクシテ正南ヨリ予期スル敵ノ反動企圖ハ有無判断ヲ為スルニ大ナル苦心ヲ掛ケアル所ナリ

然ルニ我ガ宮崎少將ノ指揮スル左突進隊ハ既ニ二十三日同地ニ転戦ノ後進入セル所同地西南側サンヤンルンヤン高地ニ敵ノ陣地アリ之カ掃蕩ノ必要前述ノ如キモノアルヲ以テ宮崎少將ハ直クニ之カ攻取ヲ開始セリ

當面ノ敵ハ迫三十数門ノ榴四門ヲ有スル部隊ニシテ高地上ニ據テシテ領スルト共ニインパール方面ヨリ自動貨車ニ依リ陸續増援ヲ派遣シアルカ如シ。之ノ敵ニ二十四日ヨリ攻取ヲ開始シ約五日ヲ要シ増援部隊ヲ併セ之ヲ曳滅セリ。

戰果 十榴四門 迫三十数門 小銃多数 シーア車四十数輛 無線機大小型計五。其他彈藥糧秣多数 左突進隊ノ一月分敵ニ与ヘタル損害多数

我損害 戦死傷計二七。

(4) 情報

ヴルル守備隊ハ約一聯隊ニシテ増援兵團ハ独立混成旅團ナリ

(二) 師団長ノ処置

師団長ニ宮寄少將ヨリ該方面ノ状況甚ニ決心スルニ附近ノ國境線上ニ於テ三十日受領シ該方面ノ價値ハ夙ニ諒トスルモ之カ爲ゴヒマ附近ノ突進遲延ヲ憂慮シ該方面ノ状況許ス限リ速カニ一部若クハ主力ヲ所命ノ如クゴヒマニ突進スル如ク命セリ

(ホ) 宮寄少將ノ処置

二十九日森林大隊ヲゴヒマニ向ヒ先遣突進セシムルト共ニ主力ハ速カニ態勢ヲ整理シ三十日及三十一日所命ノ如クゴヒマニ向ヒ急進スルノ頃オテ五師団右從隊ノ連絡將校到着セルヲ以テ該方面ノ戰場掃除ヲ交代セリ

(三)

カラソム附近ニ於ケル中突進隊前衛及左突進隊各一部協同戦斗  
師団ハ中突進隊前衛ノ一部(伊知地中隊)ヲ國境ソムラ附近ヨリカラソム道ニ分派セシガ該中隊ハ三十一日カラソム嶺部ニ於テ約二百ノ敵既設陣地ニ遭遇シ之ヲ包圍シ激戦中偶々ヴルル一ガソム道ヲ突進中ノ左突進隊島之江大隊之ノ戦斗ニ加入シ之ノ敵ヲ撃破セリ

三月三十日頃ニ於ケル國境陣地攻畧時ニ於ケル状況判断  
師団ハ既定ノ作戰ヲ益々迅速ニ突進シゴヒマニ向ヒ突進スルヲ要ス

カラソム付近の隊  
あり

1553  
1554

(二) 師団長ノ処置

師団ハ襲ニ宮寄少將ヨリ該方面ノ状況甚ニ決心スモレ附  
於テ三十日受領シ該方面ノ價値ハ夙ニ諒トスルモ之カ爲  
突進遲延ヲ憂慮シ該方面ノ状況許ス限リ速カニ部  
所命ノ如クコヒマニ突進スル如ク命セリ

(ホ) 宮寄少將ノ処置

二十九日森林大隊ヲコヒマニ向ヒ先遣突進セシムト共ニ主  
ヲ整理シ三十日及三十一日所命ノ如クコヒマニ向ヒ急進  
師団右從隊ノ連絡將校到着セルヲ以テ該方面ノ戦  
セリ

(三)

カラソム附近ニ於ケル中突進隊前衛及左突進隊各一部並  
師団ハ中突進隊前衛ノ一部(伊知地中隊)ヲ國境ソムラ  
道ニ分派セシガ該中隊ハ三十一日カラソム數部ニ於テ約二百ノ敵  
ニ遭遇シ之ヲ包圍シ激戦中偶々ウルル一ガソム道ヲ突  
突進隊島之江大隊之ノ戦ヲ加入シ之ノ敵ヲ撃破セリ  
三月三十日頃ニ於ケル國境陣地攻畧時ニ於ケル状況別詳  
師団ハ既定ノ作戰ヲ益々迅速ニ實施シコヒマニ向ヒ  
スルヲ要ス

理由ハ、ゴビマ附近迄ハ組織アル抵抗地帯ナキカ如シ

2. 印度ニ控置シタルBC、起援ノ顧慮アリ

3. 國境線迄ハ奇襲ニ成功セリ

4. 道路網ハ國境内ニ於テ我作戦方面ニシテ道整備シアリ

### 六、國境戦斗ヨリゴビマ突入初期迄

ノ敵、敗残兵ニ追躡シツ敵、シト道路ヲ利用シ決調ナル突進ヲ續行

シ國境線ヨリ一週日ヲ出スシテ各突進隊ノ戦力先頭ハゴビマ附近ニ到達

シ敵ノ警戒部隊ノ攻虫ニ著手シ四月六日左及中突進隊前衛ハゴビマ要

衝ヲ全部占領シ左突進隊ハゴビマ三叉路高地ノ残敵ノ攻虫ニ移レリ

右突進隊又所命ノ如ク急進シ四月六日カドマニテマールゴビマ道(三三哩東

側高地ニ進出セリ

### 2. 師團ノ戦斗指導

師團ハ先ツ各突進隊ノ方面ノ敵ノ攻虫續行ヲ命スルト共手ニオ三梯團ニ

歩三四及山砲主力ヲ挺進セシメ長大且分離セル戦力ノ統合整頓スル

如ク部署スル所アリ

1. 左突進隊ニ前衛ノ步兵一大隊ヲ増加シ左翼隊ヲラシム

2. 前衛ヲ以テ右翼隊ヲラシムテマアイルゴビマ道上ゴビマ背面ニ於テ敵ヲ遮断セシム

3. 右突進隊ハ現任務タルベケレレコ附近遮断

4. 歩一二回主力ヲ用テ右翼隊ノ北翼ニ急進セシムト共三部ヲケリマ北方ニ派遣シテスキヤノ方向ニ并シ師団ノ右側掩護

5. 山砲隊ノ主力ヲ附シテゴビマ部若五二ノ高地ニ前進セシム自高地ヲ守備スルト共ニ主トシテ左地ニ敵ノ戦斗ニ協力

6. 工兵隊ハゴビマノ道ヲ遮断及村殿車障碍及内攻準備

7. 其他畧

四月六日頃ニ於ケルゴビマ占領時ニ於ケル状況判断

師団ハ攻重ヲ續行シツノ戦力ノ統合發揮ニ努ムルト共ニ速ニマアイル方面ヨリノ敵ノ増援ヲ遮断スルヲ要ス

特ニ一部挺進部隊ヲマアイルニ潜入シ敵ノ交通補給施設ヲ破壊ス

理由  
師団ハゴビマヲ占領シ要地ニ於テ、イニパール方面ニ并スル敵ノ退路ハ完全ニ占領シ任務ヲ遂行セリ



2. 情報ニ依レバ 33C 英才ニ師及、アキヤク正面ヨリ空輸シヨル才セ師團才白空旅  
 団及才五師團ノ一部ハ既ニ四月一日頃既ニテマイルニ達シアルカ如シ  
 又他ノ情報ニ依レバ中部印度方面ヨリ、カルカタヲ經テ機械化師團及  
 裝甲師團急行シアルモノ、如ク殘敵ハ、アツサムニ三旅團ノ主力ナルカ如ク  
 既設陣地ニ據レリ

3. イバール主作戰正面ニ在リテハ該平地ニ至ル各隘路口附近ニ於テ激戦シアルカ  
 如ク之ニ対スル敵ノ内線及重又激化シ戦況ノ進捗消澆ナラズ

七、自四月四日  
 至六月一日  
 コヒマ周辺ニ於ケル戦斗

左ノ三期ニ大別シ得ヘシ

才一期 自四月四日 至四月廿五日  
 コヒマノ殘敵ヲ中心トスル彼我ノ早遭遇戰的陣地及重

才二期 自四月廿五日 至五月二日  
 敵ノ反重勢力膨張並ニイバール主作戰方面ノ兵力  
 転用命令ニ依ル防勢転移ノ時期

才三期 自五月二日 至六月一日  
 我ガ防勢ヲ対スル敵及重ノ高潮期

備考

全般ノ状況推移 参照 附圖才一

第一期乃至第三期作戰經過 附圖才二及才三

A. 第一期作戰經過

師團ハ四月六日頃ニ於ケル狀況判斷ニ基キ前衛ノ歩兵一大隊ヲ左突進隊ニ  
増加シ且ツ本隊砲兵ヲ速カニ五一〇高地ニ推進シ該隊ニ協力セシメ以テ速ニ  
ゴヒゴヒ又路西側ノ殘敵ヲ攻衝セシムル共ニ十一日夜前衛ヲスズガ東北高地  
ニ推進シ該據点ヲ速ニ略手シ敵ノ増援ヲ切斷シ左突進隊ノ攻衝ヲ容易ナ  
ラシム 然ルニゴヒゴヒ又路高地ノ殘敵ハ四月一日以來空輸ニヨルテ七師團ノ  
有カ部隊ノ増援ヲ受クルト共ニ英才ニ師團ノ優勢ナル火力部隊ノ支援ヲ得  
テ其ノ抵抗以外ニ數強ニシテ左突進隊ノ四月十三日同十八日二十三日ニ互ル三回  
ノ急襲モ幾カニ數據点ノ奪取ニ留マリ加フルニ山砲彈藥ノ減少ト相俟テ  
戰力逐次低下シ傳統ヲ誇ル北越健兒歩兵亦五十八師團ヲ以テシテモ前  
途尚樂觀ヲ許サザルニ到レリ之ノ間十六日右翼隊(前衛)ノスズガ突入モ  
高田中隊ノ奮戰ニヨリ時之ヲ奪取セシモ敵戰車部隊ノ跳躍ト空地ノ敵ノ  
反衝ニ該地ヲ確保スルニ到ラズゴヒゴヒ又路高地ニ向テ敵ノ増強ハ制空ノ下  
依然活潑ニ行ハレツクアリ  
又右突進隊タル柴崎大隊又所命地莫ニ進出セシモカドマ高地ノ反衝ニ後退  
シ敵ト近ク相對峙シ砲兵及小數部隊ヲ以テ敵ノ車輛部隊ノ運行ヲ妨  
害ニ努ムル狀況ニアリ  
此レヨリ先師團ハ右翼隊長ヲシテ右突進隊ヲ併セ指揮シカドマ附近ニ於テ敵

ノ退路ヲ遮断スルヘキヲ命スルト共ニ左翼隊長ニ付シ敵ノ陣地ノ強度ト組織トニ鑑ミ小部隊ヲ以テ逐次敵掩蓋壕兵ヲ蠶食スル如ク正攻法ニヨリ極力損耗ヲ減少シテ戦斗ヲ續行ス可ク指導ス

此ノ時機ニ於テ歩二面ノ主力ハ十三日夜右翼隊東北側ニ機動セシメ主トシテカバール方面ヨリ南下スル敵ヲ警戒セシムルト共ニ状況ニ應ジ左翼隊方面ノ敵況ニ投入スル如ク準備セシム本朝半頃ニ於ケル敵ノ火力ハ漸次猛烈ヲ極メ即チ左翼隊ノ地区ニ在リテハ拂曉ヨリ薄暮ニ到ル間敵地城ニ付スル集中地域射撃ヲ連續スル一方死角ニ付レテ八九發乃至二三發ノ戦瀑機ヲ以テ制壓スル等連日ニ及ブ

五一ニ高地ニ於ケル某日午前中ノ集中射撃ハ一萬發ヲ越エ我カ砲兵陣地附近ノ山形全ク改マルニ到レリ

然レトモ我將兵ハ一兵ニ到ル迄主作戦正面ノ捷報ヲ信ジツク克ク敵ヲ奮戦シ志氣此カモ衰ヘス

本期末特ニ山砲彈藥ノ缺乏甚クシク山砲隊ノ山砲一門ニ付シ榴彈十數発榴霰彈十數発トナレリ

而シテ補給ハ本激戦ニ即應シ得ルコト固難ナル狀況ニアリ

### B 第二期作戰經過

(1) 四月十九日右翼隊ハ新クニ、ネルマ據英攻略ノ爲其ノ主力ヲスズガ河谷ニ展開シ二十日薄暮ヲ期シ急襲攻虫ヲ準備中十八日師團ハ軍命令ニ依リ歩兵團長ノ指揮スル歩兵三々大隊砲一大隊ヲ基幹トスル部隊ヲ速カニインパール主作戰方面ニ展開スベキ命令ヲ受領ス

茲ニ於テ師團ハ四月十九日頃ノ狀況判斷(附圖才三参照)並ニ左翼隊ノ戰力及補給ノ低下ニ鑑ミ將來ニ亘ル師團ノゴヒマ附近ヲ確保ノ確信ヲ有スル特久ノ態勢ニ転移スルニ決シ遂次左ノ如ク處置ス

1. 右翼隊ノ二十日ノ攻虫ヲ中止シ一部ヲ以テ行ヲ執拗ナル交通擾乱ニ任セシメ主力ヲスズガ東方高地ヲ確保シ挺進部隊ヲ以テスル交通遮断ヲ續行セシム

2. 歩一二四ノ主力ヲ先ツゴヒマ南側アラガラ高地ニ向ヒ前進セシメ敵ノ突破ヲ防止スル如ク堅固ニ築城(特ニ封鎖車)ヲ構築シ且ツ隨時インパール方面ニ挺進シ得ル如ク準備セシム

3. 左翼隊現在地附近ニ於テ防勢態勢ニ転移セシム

4. 新クニ中地区隊ヲ白石大佐ニ指揮セシメ五二〇高地ヲ固守セシム

(四) 四月二十三日左翼隊 第三回總攻戦ノ状況

歩兵團長八四月二十三日当面ノ殘存據兵高地ニ付シ掉尾ノ態ヲ敢行セリ 參加セテ中隊ハ戦力ノ尾ヲ越エテ敵掩蓋陣地ニ突入(各中隊ヲ重疊部署ス)シ敵陣地ヲ一時奪取セルモ各中隊殆ド全滅シ確保スルニ到ラス 決ラ春シテ防勢ノ態勢ニ移ルノ已キキニ到レリ

C. 第三期作戦經過

イ. 五月三日敵ノ總反攻

師團ノ防勢ノ餘祐ハ約七日間ヲ有シ能勢概不確立セリ

五月三日当面ノ敵ハ三十屯リ及シヨリシ戰車三十數輛 輕戰車十數輛ヲ伴ヒ陣地ヲ出テテ其ノ重兵ヲ左地区隊正面ニ指向シ反撃ス 亦反攻ハ從來ト異ナリ敵亦一回ノ組織的反攻ニシテアル右彼我攻守處ヲ異ニシ我ハ其ノ都度陣前(内)ニ敵ニ大ナル打撃ヲ加エツル退ス 特ニ五一〇高地ヨリ側射スル我山砲射撃ノ十數発ハ特ニ効果アリタル遺骸下ヲ彈藥少數ニシテ決定的打撃ヲ加フルニ到ラス

ロ 師團ノ防禦重兵ヲコヒマーインバール道上ニ保持ス

五月十七日頃左地区隊ノ戦力ハ逐次減少シ該隊ノ現陣地保持困難トナルヲ以テ宮本部隊ノ歩兵一テ大隊次ヲ独断該部隊ノ全力ヲ歩兵團長

指揮下ニ入ルト共ニ依然、アラストラ高地ヲ突領シテ縦深配備ヲ採  
以テ豫期セザル敵機甲部隊ノ縦深突破ニ備ヘシム

(八)五月十七日頃ヨリ敵ハ重突ヲ五二〇高地ニ指向シ右及中地区隊ノ後方

ヨリ楔入ス右及中地区隊効ヲ奏セズ

即団ハ予メ準備シクル所ニ依リ右地区隊ニ部ヲ現陣地ノ要點ニ殘置  
シ其ノ主力ヲヒスエマ高地ニ転移シ五二〇高地ニ連繫セル地線ニ既備  
ヲ變更ス

(二)自五月十七日  
至六月一日間ノ戦況

敵ハ一週日ヲ隔シ左地已隊及五二〇高地ニ重突ヲ復向猛攻ニ努メシモ  
尚ゴヒマ周辺ノ要地ハ我手ニ確保セラレアリ

之ノ間兩期ノ到來ト主作戰方面戦況ノ交絡、補給ノ杜絶ハ戦力ニ影  
響スル所大ナルモナリ

此向師団ノ受ケシ補給ハ山砲彈藥五白発(一門十五発)ニシテ糧秣ハ現  
地收集ノミニ收レルモ、ルンダクミ、バケケクミ等北方正面ヨリノ敵逸透ハ  
糧秣ノ收集ニ大ナル影響ヲ与ヘクルノミナラズ土民ノ敵ニ歸ス者又漸増  
シ敵戦ヲ重ネツテ本現況ニ於テノ自治ハ遂次困難トナレリ

(本) 六月一日 転進 固スル軍命令 受領

師団ハ歩兵団長ノ指揮スル歩兵大隊砲一大隊基幹ヲ以テ宮寄支隊ト  
單直轄ヲ多シム依然アリテ今附近ノ確保シ敵ノイッパル突進ヲ拒止セシム  
ルト共ニ主力ハ速カニサシヤク附近(ウール西南側)ニ転進スベキ要旨ノ軍命  
令ニ接シ左地ニ隊方面ノ戦況ニ鑑ミ独断左ノ如ク處置ス

1. 歩五八主力 歩二四ノ尾堂大隊及一時鈴木大隊ヲ増強スルト共ニカラム  
附近ニ歩二三八有賀大隊ヲ配置(師団直轄)シ歩兵団長ノ戰鬥遂行  
ヲ容易オラス

2. 独歩三千及移送患者(約八百)ハ師団ノ主力ヲ以テ移送ス

3. 通信及補給機關ノ増強

歩兵団長ノ指揮スル部隊ノ撤去時機ハ月上旬迄旨ノ軍内意ヲ承知ス

八、自六月一日  
至六月五者 宮寄支隊ノ状況ト師団主力ノウールル附近ニ向テ転進(本意)ト

本期間 転進 爲師団並ニ各部隊ノ最モ苦慮セシ件左ノ如シ

- 1. 人馬糧秣欠乏
- 2. 雨期及飢饉ニ伴テ疾病増大
- 3. 右ノ如キ條件下ニ極大ナル移送患者ヲ帶同シテ行テ機動
- 4. 敵機ノ活発ナル機動妨害
- 5. 宮寄支隊方面ニ升スル顧慮

宮崎支隊

師団主力ヲ以テスルゴヒコ附近ハ確保モ長期ニ爲ニハ尙物質的ニ困難ト判断  
シアリシ處宮崎少將ノミヲ以テ而モ師団主力ノウケルル方面転進後尙三月  
該地ヲ保持スルコト至難ナル事明瞭アリ此ノ英師団自最モ苦慮セシ所ニシテ  
給養裝備充實独断ニ依ル一部兵力ノ時期的増強ゴヒコ一カラム  
道ノ扼止ヲ成シ得ル限リイ處置ヲ採レリ又該支隊ハ師団主力ノ転進ニ  
伴ヒ防支態勢ヲ整備シアラヌラトビスコノ線ニ整備スルト共ニ予ト至マ  
コトヲシテ附近ニ逐次イニバル道上ニ行動スベキ場合ヲ顧慮シ陣地ヲ偵察  
スルトゴヒコアリシガ如シ

(四) 師団主力

師団ハ連日ノ敵ヲ依リ敵ノ追索ヲ受クルコトヲ企図シ秘匿策ヲ講ジシ  
順調ニ戰場ヲ離脱シ其ノ後衛タル歩一三八聯隊ハ六月一日夜ゴヒコ  
附近ヨリ主力ヲ散ス  
爾後ニ於テハ機動ハ前記ニ條件ノ爲多天ノ困難ヲ克服シツ各部隊及  
後衛毎ニ清掃隊ヲ編成シ精力遺棄死体兵器物件處理ニ任セシム  
ルト共ニ師団一休トシ患者ヲ擔送ニ当レリ



当時師団長訓示ニ節ニ違者ヲ大切ニシテ違者ヲ跡未ニスル軍隊ハ戦ハ  
勝テシト、各隊ハ右訓示ニ感銘シ連日連夜一回ヨキハ八軒行軍ヲ爲  
スノ上ナキ状況ニアリ 軍ヨリ一週同ヲ以テ敵進ヲ了スルキ督足電報  
ヲ受領セシモ状況如何トモシ難シ 思フニ当時違者ノ後送ハ部隊健兵  
ヲ以テセザレバ他ニ後送ノ策ナキトコトニ撤退時約一週同ノ糧秣ヲ餘ス  
ノミニシテ部隊ハ行軍シ宿營地到着後更ニ糧秣ノ蒐集ヲ要スルノ  
状況ニアリ 六月十日日夜、ワラルル附近ニ達シ軍參謀長及祭兵團ト夫々  
連絡スルコトヲ得タリ

九 師團カ、ワラルル方面ヨリ、インバール攻略実施ヲ中止セシムル経緯

(4) 六月十四日頃、インバール攻略ニ任スルキ命令ノ要旨受領

六月十四日頃、師団司令部ワラルル北方地区ニ達セシ時無線通信障碍  
ニ伴ヒ軍通信係野瀬中尉來部次軍令ヲ傳達ス

軍命令ノ要旨

- 一、軍ハ京今ノ主攻正面ヲワラルル一、インバール道ニ沿リ地区指向ス
- 二、第三師團ハ祭兵團ノ左翼、インバールワラルル道南側ニ展開シ  
インバールニ高ト攻虫スベシ

(四) 六月十四日頃ニ於ケル一般状況

1. 祭兵団

當時ニ於ケル祭兵団ハ松村聯隊ヲ宮寄支隊長指揮下ニ入ラシムルト共ニ其ノ主力ハイバレル平地ヨリ後退シ其ノ第一線ハヤンガホビイ、ウケルル間イバレル道南北地区ニ在リ敵ノ交攻ノ重点ハ本道ニ在リテ戦況ノ進展容易ナラサルハ状況ニアリ

2. 宮寄支隊

アラストラ附近ヨリ逐次トモマ及マオソクサノ附近ニ後退シ敵ノ優勢ナル脆戦砲ノ突破ニ辛ウシテ抵抗シアルカ如キモ通信杜絶シ明確ナラス

3. 弓兵団及山本支隊

弓兵団ハ、ヒシエンアル南側地区ニ於テ戦斗交戦シ敵ノ交攻ハ増大シ空挺部隊ノ活動活発ナリ

山本支隊ハ、バレル附近ニ於テ交戦中、シガホシ(バレル北方)地区ヨリ透達スル敵ニ対シ反撃ノ後、ヤマキル南方ノ既設陣地ニ據リ敵ノ拒止シツツナリ

4. 軍司令部ハ當時、グム北方地区、クレンニ在リ

5. カホウ谷地ニ於テ補給及衛生機關ノ状況

軍ノ補給莫ハ、フミネ、ウツルル、タム、フミシタ、(予定)ニシテ陸路兵站線ハ雨期多ク  
自動貨車ノ運行殆ド不可能ニシテ、チド、ク、河ヲ利用シ、シツ、シ、迄補給  
ハ稍々期待シ得ルニ過キズ

而シテ右ノ状況ニアルヲ以テ、ウツルル、フミネ、タム、附近ニハ集積糧秣殆ドナク、患  
者食ヲモ徴発ニヨラサルベカラサル状況ニ在リ

衛生機關ハ、タム、フミネ、兵站病院開設シ、アリシモ、殆ド患者ヲ收容スルノ  
能力ヲ有セス、又車輪ノ運行不良ナル爲、之カ後送殆ド實施セラセス、患者ハ

(ハ)

自隊帶同ガ機ノ原則トセル状況ナリ  
六月十九日師団長ト軍參謀長トノ意見ノ交換  
師団長ハ六月十四日頃ニ於ケル前述一般状況ニ基キ、尔後ニ於ケル軍並  
師団ノ作戰ニ関シ意見ヲ陳フル所アリ

軍參謀長又軍ノ企圖並師団ニ付スル要望ヲ述フルト共ニ急遽軍  
司令部ニ般還ス

(ニ)

六月二十三日頃、ミヨカト附近ニ転進、山本支隊ヲ併マ指揮シ、バレルヲ攻  
略スベキ軍令ノ要旨電報ヲ受領ス、之向師団ハ別紙(附圖ヲ参照)  
ノ如ク態勢ニ在リテ、極力察兵団ト協調ヲ保持シツ、糧秣ヲ收集シ  
ツ、アリシガ直ニ機動ヲ開始シ、六月下旬ヨリ七月上旬ニ至リ、ミヨカト東方  
地区ニ集結ヲ完了セリ

十 師團主力ヲ以テスル山本支隊トハ、パレル攻略ヲ中支セラレ名経緯

軍ガ當時師團ヲ「ミヨダト」西側山地ニ投入シ、パレル攻畧ヲ企圖セシ所以

ハ軍ガ最後迄「インバール」攻畧ヲ政略上ヨリ断念セザリシト「ミヨダト」ニ付スル

補給点トシテノ價値地「ミヨダト」西方山地内ニ依存スル現地物資ニ付

スル誤信ナリ 然ルニ補給点トシテノ「ミヨダト」ハ「ム」河ハ瀨アリテ、河

ヨリノ通航不可能ナルト山地内ノ物資又予期ノ如クナラサルニ到リ茲ニ於テ

六月三十日軍ハ歩兵約三大隊砲一テ大隊基幹ノ部隊ヲ「ミヨダト」ニ派遣

シ山本支隊長ノ指揮下ニ入ラシムル如ク命令ヲ発シ師團ハ島飼大佐

ヲ長トスル歩三八ノニテ大隊及歩二四ノ増田大隊及山砲一大隊及工兵師

團無線第一師戰病院等ヲ七月一日「ミヨダト」ニ派遣ス

十一 自七月十八日 至八月五日 シツタン（チンドワン）河畔附近ニ於ケル師團ノ軍主力ノ爲ノ後待休戦

ノ七月二十日師團ハ「クチン」ニ於テ七月十八日發左記要旨軍命令ヲ受領ス

(一) 軍ハパレル攻略ヲ中止シ主力ヲ逐次「チンドワン」左岸地ニニ派遣セシメ能

勢ヲ整理ス

祭兵團ハ「クチン」ト「ム」以北ノ「ミヨダト」山系ヲ確保シ一部ヲ以テ「ホマリン

」主力ヲ南部「シユビ」山系ニ派遣シ

弓兵團ハ依然現態勢ニ在リテ斷斷ラノ敵ヲ拒止

山本支隊ハ、チヤモル附近ヲ確保シ、軍直諸隊ノ撤退ヲ掩護

(二) 第三十一師團ハ、主カヲ以テ、シツクシ、西側地ニ堅固ニ橋頭陣地ヲ占領スル

ト共ニ有カ、エル部隊ヲ、シツクシ、山系ノ交通ニ配置シ、山本支隊ヲ、及ビ  
祭兵團ノ、撤退ヲ掩護ス、ミシ、宮崎及鳥飼支隊ヲ、復歸セシム

十二師團ノ、シツクシ、西方橋頭陣地ニ據ル、後衛戦斗(参照才四四)

ノ、右要旨命令、基キ、師團ハ、主カヲ、シツクシ、右岸一部ヲ、左岸陣地ヨリ、池

池障ヲ、克服シ、ツツ、ハ、シツクシ、シツクシ、オク、シツクシ、同ノ、地区ニ、集結ヲ、命ス、ル、ト、共ニ、  
量、シツクシ、シツクシ、附近ニ、行動中ナル、歩兵、五十八、聯隊ニ、中隊ヲ、ム、  
河畔、ヤナニ、渡河、点ニ、又、聯隊、主カヲ、シツクシ、西北、轉部ニ、先遣シ、師團、  
主カノ、転進ヲ、掩護セシム

2. 先遣歩五八ノ一部及主カハ雷報及連絡遲延ト交通細ノ記憶ニ依リ

八月一日ヨリ十日向ニ於テ漸ク所命ノ地、占領ヲ完了ス

3. 之ヨリ先、佐藤幸徳中將ハ七月十日転任(有、二十日発令)ハ命令アリ

歩兵團長宮崎少將七月十四日頃、タチシ、師團司令部ニ到着、代理ス、次テ  
七月二十五日頃、新師團長河田龍太郎中將、イ、タ、シ、ハ、シ、  
五里、チ、河、右、岸、到着、次、テ、十八日、シツクシ、ニ、戦斗、司令部、ヲ、設ク

4. 八月十日河田中將ハ率先ピンボシサカシ西方約八軒鞍部我警戒部

隊ヲ巡視指導中約五十ノ敵斥候ト遭遇シ大隊長井川大尉兵八ヲ以テ駆逐シ爾後八月十八日頃ヨリ当面ノ敵ノ追索行動活発ヲ極メ山砲十榴ノ推進ヤナシ渡河莫ク開設 交通路ノ補修等ノ実施ヲ爲シツツアリコシタ河畔ニ時々砲聲ノ落下ヲ見ル事面ノ敵ノ所屬ハ尚不明ナルモバレルト云道ヲ急進シタル新銳部隊ナルモノト如シ

5.

師団主力ヲ以テスル敵突進阻支  
コシタ周辺ニ軍直弓山本支隊祭等患者及糧秣ヲ有セスシテ機動困難ナル部隊 単独兵等烈兵団ヲ除キ當時一萬三千以上増集シアリ部隊数實ニ十六以上ヲ數ヘ其ノ後送完了ハ十月一杯ト云フ軍參謀ノ判断ナリシモ師団ハ之ニ協力シ鈴木工兵聯隊長ヲシテ民舟ヲ併用スル并岸渡ヲ敢行シ糧秣一週間宛ヲアタヘバシク及モライクノ軍糧秣交付所ニ行動セシム

入院患者及重患者ハ軍兵站線ニ依リ水路ガレワ附近ノ病院ニ後送セリ 右ノ如キ狀況ニ鑑ミ師団ノ持久日數ヲ勘案シ師団長ハ及淀兵団佐藤聯隊ニテ大隊ヲ歩五八長ノ指揮下ニ入ラシメ極力心ヲ付カシ附近ニ於テ敵ヲ拒止セシムルト共ニ阿久津少佐ノ指揮スル山砲一大隊(山砲三門)ヲ増加ス

当面ノ敵ハ十榴四山砲十数門迫ニ三十門ヲ有スル歩兵ヲ散團ナルモノ  
如ク敵機一日ノ出動戰爆延四五千機ニシテ主トシテシツタシ橋  
附近及「ピホ」ガシ我陣地ヲ目標トス

6. 患者病院部隊機動促進ノ状況

「ハ」シツタシ下流「オ」タシ間ニテ所計四ヶ所ニ渡河作業隊ヲ配置シ独歩  
患者ハ指揮官ヲ定メ重患ハ舟部隊ハ夫々任務ニ依リ「チ」河々畔ヲ機  
動ス 以上ノ事項ニ関シ師団ハ「シ」シツタシ地ニ部隊整理並ニ自隊  
衛生機関ヲ展開シ之カ援助スル等戰鬥推移ヲ考慮シ統制セリ  
右ニ依リ概ネ整理見了八八月一杯ニ終了スベキ目途ヲ有スルニ到レリ

7. 師團ハ「シ」シツタシ撤退

軍ノ統制命令及祭兵團方面ノ状況等全般ヲ考慮シ八月二十日該地ニ  
ラ撤シ一部ヲ以テ「チ」河々畔ヲ警戒シツ、主力ヲ以テ先ヅ「バ」シツタシ一部ヲ  
以テ「カ」ワ「シ」附近ニ集結シその後機動ヲ準備セシム  
師團司令部ハ二十日「シ」シツタシヲ撤去シ「オ」ク「タ」シ對岸ニ移動ス

第四 左突進隊感狀受領

本作戦ニ於テ師團ノ宮寄少將ノ指揮スル

左突進隊ニ對シ第十五軍司令官 牟田口中將

ヨリ感狀ヲ受授セラル